

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2779101241		
法人名	医療法人 田中クリニック		
事業所名	リ・リブホーム		
所在地	大阪市淀川区西中島6丁目11番31号 レーベネックス4・5・6F		
自己評価作成日	平成 24年 5月 30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 8月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101241&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 6月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした清潔な環境の中で、個性を尊重したケアを心がけています。勤続年数の永いスタッフも多く、入居者やご家族との信頼関係も出ています。法人内のクリニックとのしっかりとした連携もあり、安心してケア出来る環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に定着し活躍している医療法人が運営する3ユニットのグループホームです。当ホームは新幹線が発着する駅から徒歩数分のところに位置し、公園や保育所、学校、コンビニなどがすぐ近くにある利便性の良い場所にあります。ホームは同法人が管理する建物の4・5・6階部分にあり、2・3階には同法人診療所や、利用者が参加し地域の利用者とも交流しているデイケアセンターがあります。また1階にはレストランを設置して野菜豊富な料理を提供しながら、利用者の副食作りも担当するなどして地域との交流の場にもなっています。ホームでは外出や行事に力を入れており、近くの公園やホーム周辺の散歩、コンビニへの買物、郵便局、喫茶店に行くなど日常的な外出支援に努めています。年間行事では劇場、歴史博物館、菖蒲園など希望の場所へ全員揃って出かけています。利用者の希望でステーキ専門店、回転ずし、和食レストラン等へ出かけ楽しむこともあります。ホームでは24時間医療連携支援を行っており、利用者は常時適切な医療を受けることができ安心して生活することができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員間での話し合いの中で作り上げた運営理念は大きな三本柱からなり、フロア内に掲げている。又、ミーティング時等には、確認周知し、実践出来る様にしている。	運営理念では「個性・信頼・傾聴」を三本柱として重視しています。さらに運営の方針では「認知症によって自立した生活が困難になった要介護状態の利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえ、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう～必要な援助を行います」と明記しています。管理者と職員は理念を共有し、利用者が地域との交流を持ちながら生活できるように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や夏祭りなど、季節の行事には参加し、近隣との交流の場を図っている。行事を行うときには、民生委員や社会福祉協議会の方を通じて近隣の方達にも声をかけ、参加してもらっている。	地域の小学校との交流があり、運動会や学校で行われる地域夏祭りにも参加しています。法人主催の行事には近隣の人にも呼びかけて参加してもらっています。ホームが設置されている同ビルの1階にはレストランを設置し、地域から来られる一般の人々との交流の場にもなっています。また、地域ボランティアの協力を得て、行事を行うこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	高齢者支援室を通じて、福祉事務所と相談して取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人内の関連部署に依頼し講演をしたり、入居者様を交えての座談会、生活の様子DVD鑑賞会等をしている。会議での意見はサービス向上に生かせる様にしている。	運営推進会議は年6回の開催を行っています。メンバーには利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等が出席しています。「リ・リブホームだより」を2カ月に1回発行し、利用者家族に運営推進会議のお知らせをして参加を呼びかけています。会議では利用者の現況報告や行事予定・報告などを行いながら、介護保険の動向を学んだり、インフルエンザ流行への対応について確認したりしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の研修所として、事業所を活用してもらい、クリニック院長による認知症等の講演もしている。	管理者は運営について市(区)高齢者支援室に相談したり、情報交換をしたりして相互の協力関係を築いています。同法人は市(区)職員等の研修に場所を提供し、さらに研修講師を務めるなどして地域貢献に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないように、危険予測や分析・対処方法等を話あっている。</p> <p>もし、身体拘束をせざるを得ない場合は、入居者及び家族への説明『切迫性・非代替性・一時性』の3つの要件に主治医の所見を合わせて検討し記録に残していく。</p>	<p>重要事項説明書に「身体拘束廃止に向けての取り組み」を明記し、やむを得ず身体拘束を行う場合の取り決めをしてはいますが、ホームでは身体拘束は一切行っていない状況です。また、玄関やエレベーターも開錠しています。利用者が外へ出たい素振りを示した場合には、職員が付き添って外出しています。ユニット玄関ドアやエレベーターには「一人では外へ出られません。外へ出られる場合には職員にお知らせ下さい」などの張り紙をして利用者に呼びかけ、安全対策をしています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者やホーム長、主任等が利用者の状態に注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>司法書士の先生と入居者の相談をし、制度を活用できるように支援している。</p> <p>又、成年後見制度についてのご家族からの相談にも対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前と入居時には契約の内容を丁寧に説明し、理解して頂いている。解約時にも同様に理解して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やその家族に対して、苦情対応の担当窓口、ホーム内での対応方法を伝えている。又リビングには「ご意見箱」を設置している。 面会時に何でも言ってもらえる雰囲気作りをし、意見や要望は記録に残し、介護計画等に反映させている。	家族の来訪時には、職員から声かけをして家族の意見や要望を聞くようにしています。また、意見箱を設置して意見を出しやすくしています。運営推進会議には家族の出席があり、意見や要望などを発言する機会が設けられています。出された意見はホーム運営や利用者支援に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう職員との面談やミーティングで提案の機会を設けている。	管理者やホーム長は日常的に職員の意見を傾聴し、ホーム運営に活かしています。また、職員の気付きノートや現場の声を書き込んだ「リ・リブの声」を活かして、職員会議やフロアミーティングで話し合い、職員の意見を反映させています。さらに職員一人ひとりの面談の場を設け、細やかな対応ができるように配慮しています。	ホームでは昨年に引き続き職員研修に力を入れています。職員の外部研修への参加を増やししながら、区内のグループホーム連絡会で業務時間外にも「自由に参加と交流ができる勉強の場」が設けられるように取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望には出来る限り対応し、職員数も多く配置している。給料水準も年毎に検討を重ね、職員がそれぞれ役割を持つことで、向上心が持てるようにしている。又定期的に勉強会を開催したり、カンファレス等にも積極的に参加できる環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クリニックの研修には、常勤・非常勤ともに出来るだけ参加して研修を共有できるようにしている。又、外部研修にも出来るだけ参加できるように機会を作りたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やグループホーム職員勉強会で事例検討会を行い、必要時にはクリニックの院長や臨床心理士からアドバイスを受けている。又、相互訪問等で、交流の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの見学時や、自宅を訪問した際に、本人から話をよく聴いて、希望や要望を確保出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの見学時にご本人やご家族の話をよく聞き、安心して入居出来るよう随時相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を把握し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人の生活歴を知り、趣味や特技等を一緒に楽しみ、出来る限り自立した生活が継続できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での行事等は、ご家族に事前に連絡案内し、参加協力を得ている。又来所持には、本人の日々の様子を伝え共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者が以前生活していた場所へ買い物に出かけたり、以前と変わらない交友関係が続くよう努めている。</p>	<p>利用者が以前居住していた地域を訪問し、買物や食事を楽しんだり、家族の協力を得て墓参りに出かけたりしています。また、利用者が昔馴染みの友人等へ年賀状や手紙を出すことができますように支援し、郵便局へ同伴したりもしています。利用者は、自室内に個別電話を置いて外部と交信することもできます。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>孤立しがちな入居者や、入居者同士の行き違いによる、いざこざが起きないように、スタッフが状況を把握し、良い関係が保てるように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>連携先への入院などの場合は管理者やスタッフが、月に最低1~2回は様子を見に行き、本人や家族の相談にのるなどしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族に希望をしっかりと聞き、入居後も本人との会話や関わりの中で、希望や意向を汲み取るよう努め、得られた情報はカンファレンスや、申し送りで共有するようにしている。	職員は利用者一人ひとりの意向に添った支援に努めています。希望や意向の把握が困難な場合でも、利用者のかかわりの中で意向を汲み取るようにしています。また、家族を通じて利用者の心情を確認したりもしています。利用者や家族の意向は記録に残して職員間で共有し、介護計画書に反映するなど支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、担当ケアマネから情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族、スタッフから情報を聞き、把握に努めると共に、カンファレンスで共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりの中から本人や家族、関係者から生活に対する意見や希望を聞き、反映させるようにしている。</p> <p>日々の記録と職員の意見を参考にアセスメントを行い、介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書作成者は本人・家族の意見や希望等を事前に聞き取り、また職員への聞き取りも行い、日付を入れて詳細を記録に残しています。さらに職員の気付きノートや現場の声を書き込んだ「リ・リブの声」を活かして介護計画書案を作成し、カンファレンスやフロアミーティングで介護計画書を確認し、調整を行った上で利用者・家族に説明しています。利用者・家族の追加意見等があれば調整して日々の支援に活かしています。介護計画書は家族の了承を得て職員間で共有し実践しています。介護計画書は6ヵ月毎に見直しを行い、短期目標の設定や変更などを行っています。聞き取り記録・カンファレンス記録、モニタリング記録、アセスメント表をファイルに綴じて共有しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日勤帯では、個々の職員からの情報をリーダーが取りまとめて記録・夜勤帯は夜勤職員が記録している。日々の記録は職員全員が読み、確認のサインを行い情報の共有をしている。介護計画の見直し時には、その記録を生かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を生かして、体調の変化がある時は24時間いつでも医師に連絡し、指示を受ける事が出来る。また本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応している。H21年3月よりショートステイの受け入れを開始している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>グループホームでの行事の時などには、ボランティアへの協力をお願いし、実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>複数の医療機関と連携をとり、入居者やご家族が納得できる医療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望に添って医療機関への受診を支援しています。入居前からかかりつけの医療機関に継続して受診している利用者がおられます。内科、精神科は利用者の状況や希望により、訪問診療が受けられるようにしています。24時間医療連携支援が行われており、利用者は常時適切な医療を受けることができます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や相談をすることが出来る。又、クリニックの看護職員と気軽に相談しながら、受診や看護のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には、こまめに状態を見に行き、病院関係者との情報交換や相談をするように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応指針を定めて、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、日常の健康管理や急変時に対応できる様、医療官機関との連携を図っている。	終末期の対応指針を定め、入居時に家族や本人に説明をして終末期の対応についての希望を確認しています。24時間医療連携支援体制を整備しており、急変時にも医師・看護師と相談しながら本人や家族の意向を尊重した対応をしています。最終的には入院される場合が多く、看取り支援をすることはほとんどない状況です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を実施し、AED及び応急セットを備えている。 緊急対応マニュアルシートを作成し、対応についてミーティングで話し合う様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行うと共に、独自の災害訓練も実施している。 運営推進会議などを通して、地域の避難場所の確認や、備蓄の確保の状況の把握に努めている。	毎年1回、法人主催で消防署立ち会いのもとに避難訓練をしています。また、ホーム独自の避難訓練を年に1回行っています。訓練の状況はそれぞれ記録に残して共有しています。災害時には道路を隔ててすぐ前にある地域の公園に避難し、その向いにある小学校へ避難することができます。災害時の備蓄として水と非常食をホームに用意していますが、地域の小学校にも災害時備蓄があり避難した際には非常食として活用できるようになっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩として尊敬し、不適切な対応や言葉かけにならないよう、定期的な全体ミーティングを実施し、職員間で意識確認している。	職員は利用者一人ひとりの意向を尊重した対応をしています。適切な言葉かけや対応、記録の方法等について職員間で学び、話し合い、不適切な対応を行わないように取り組んでいます。利用者の個人情報保護については職員採用時に契約書を交わしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意向に沿った支援が自身で選択しそれを伝える事ができる様な環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	DCやレクリエーションの参加は体調を見ながら促し、入居者自身に選択してもらっている。DC 以外の時間や日曜日は、入居者が自由に過ごせるような環境をつくり、出来るだけ希望に応じるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に応じ、理・美容院は本人の望む所へ行けるよう努めている。好みの洋服を選んだり、化粧をするなど、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食事が届いたら、盛り付けをしたり、食後には片付けなどを職員と行っている。味噌汁つくりやおやつレクなど、利用者と一緒にできることを一緒に考え行っている。	ご飯と汁ものはホームで作っていますが、副食は同建物1階のレストランで新鮮な食材を活かした料理が作られ運ばれています。職員は利用者とともにご飯とみそ汁を用意したり、配膳したり、片づけたりしています。おやつ作りを楽しんだり、屋上の菜園で利用者と一緒に育てた野菜をみそ汁にしたりして味わっています。また、ステーキ専門店、回転寿司、和食レストランなど、利用者の希望に添って外食に出かけ楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事依頼をしている所で、栄養計算をしてもらっている。水分補給は、毎食後・おやつ時・体操後・入浴後と決められた提供分と随時テーブルにお茶を用意し自由に飲用出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、見守り・促し・一部介助・全介助と入居者の状態に合わせて行っている。 歯科受診は必要に応じて適宜、又、定期健診等も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>リハパン着用時にも、できるだけトイレ誘導を行い、排泄の失敗がないように援助していると共に、1人1人の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導をしていますが、タイミングが合わずに失敗することもあります。職員はシャワー浴を行い、清潔が保たれるように支援しています。またトイレで排泄されている利用者でも、リハビリパンツを着用している場合には、時間を見て交換を勧め、気持ち良く過ごせるように支援しています。</p>	<p>職員はトイレ誘導の成功事例について、経験を共有し、失敗を繰り返さない支援に取り組んでいます。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝には体操し体調に合わせて散歩に出かけている。水分補給も定期的に提供したりして、組み合わせ調整している。運動だけでは難しい方も含めて、朝食時には牛乳、又週に一度はヨーグルトの提供をして、便秘の予防に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日・時間の設定をしているが、入居者の体調や希望に合わせて、適宜対応している。希望があれば毎日の入浴にも対応している。	利用者一人ひとりに週3回の入浴ができるように計画していますが、利用者の体調や気分がすぐれない場合にはその都度変更しています。また、入浴を希望される場合には予定日以外でも入浴することができます。入浴を好まれない場合には無理に勧めず、時間を見て声をかけたり、翌日に変更したりして柔軟に対応しています。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを用意して楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室であり施設もできる為、状態に応じた休息・安眠は確保できている。その際の体調確認・安否確認は時間を見ながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時に処方された薬は個人ボックスにセット後、別スタッフによる再確認をする。与薬時もセットから服薬まで2人体制で支援している。又個人処方薬ファイルを作成しスタッフ一人一人が把握できる体制を取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	平日はDCに参加と、楽しみながら脳と体の機能プログラムに参加している。DC以外の時間や日曜日は希望に応じ散歩・買い物・喫茶に外出し、食事作りも職員と一緒にできる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を日々の生活や会話の中で把握し、出来る限り応じる様に努め、外出の機会を持てるように支援している。	近くの公園やホーム周辺の散歩、コンビニへの買い物、郵便局、美容院、喫茶店に行くなど日常的な外出支援に努めています。普段はいけない場所には年間行事として劇場、歴史博物館、菖蒲園など希望の場所へ全員揃って出かけています。また、同法人クリニックのデイケアに週5回程度出かけ、地域からの参加者と一緒に作品を作ったり、ゲームをしたりして交流しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて管理し希望時には、いつでも使えるように預かっている。買い物時の清算はスタッフ見守りの元なるべく自身で出来るよう、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	居室に固定電話を置いて頂く事ができる。また歩いて2分の所に公衆電話や、郵便局に希望時付き添う等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の場所には、くつろげるソファを置き、新聞や雑誌を常置し、花を飾ったりしている。玄関ガラス扉には入居者と作成した季節の飾りつけを毎月工夫しておこなっている。</p>	<p>建物の1階にはレストランがあり、2階・3階は同法人診療所、4・5・6階がグループホームになっています。エレベーターを降りるとユニット玄関前の踊場があり、植栽をして椅子を置くなどくつろげる場所にしています。ガラス張りの玄関を入ると食堂兼居間があり、ソファを置いてゆっくり休めるようにしています。床は滑らないように、トイレは引き戸で使いやすく工夫しています。5階・6階のユニット浴室は同時に2人が入れるように、4階の浴室は車いすでも対応できるようにしています。非常階段は3カ所あり、3方向から避難できるようになっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事をするテーブルと、くつろぎ用のソファが同じ空間にある為、全く1人になるのは難しいが、思い思いに過ごしてもらうことができる。又エレベーターホールにも、共有の椅子があり、喫煙談笑の場として、有効に利用されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や好みの家具類等持ってきて頂き、使用してもらっている。又生活スタイルに合わせ、テレビや電話も自由に使ってもらえるようになっている。	居室はどの部屋も整頓され、清潔感があります。居室には備え付けのトイレや手洗いがあり、利用者はテレビや電話・冷蔵庫・仏壇・鏡台・電話・使い慣れたタンスなどを置いて、自分らしい居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで、廊下・浴室・トイレの要所、一部の居室に手すりを設置している。リビング床は滑りにくく、居室床には転倒しても怪我をしにくい材質を使用している。		